

「鮎との出会い」

(第三回)

鮎釣りは夏の風物詩。吉野川を上流にさかのぼると、名人たちの竿が遊ぶ。アユには釣り人ならずともファンが多い。

優美な姿に加えて独特の香りを持つため、香魚とも呼ばれている。塩焼きにして頬張ると、口の中になすがすがしい清流の香りが広がる。

アユの稚魚は川で生まれた後、海に向かう。6cmほどに育つと川に戻って遡上。その姿には上品な外觀からは及ばない力強さがあり、秋には産卵して一生を終える。年魚とも呼ばれるように、わずか一年の命。それだけに、その生きざまや可憐な姿は日本人の心を打つ。だからアユとの出会いには「一期一会」のわびさびを感じる。「鮎」は中国語でナマズを意味するので、片

仮名の「アユ」が清楚なイメージにふさわしい。魚体の大きさは月の数に三をかけるとよい。アユ漁が解禁になる六月は18cm、七月は21cmといった具合である。

吉野川をはじめ那賀川、勝浦川にもアユが多い。徳島の河川がいつまでも清く美しいのは、県民の一人として嬉しいものだ。

七月から「よしのがわ・リバー・キープアズ」事業がスタートする。川に関わるイベントに参加すると、パスポートにスタンプ一個。川と触れあい親しんでほしい。

梅雨明けとともに水辺のアウトドアスポーツの季節が到来する。ふるさとの川で水遊びに興じる真つ黒に日焼けした子供達。自然の恵みを感じて健やかに育つよう、豊かな自然環境を守っていききたいものである。

(徳島大学附属病院内科医師)

健康のススメ
板東 浩